

中国都市部における有配偶者の出生意欲の関連要因

Fertility intention and related factors among married persons in urban
China

靳 璇 (お茶の水女子大学・院)

JIN XUAN (Ochanomizu University)

連絡用 E メールアドレス : senkin.jxa@gmail.com

近年、中国の出生数・出生率とも下落を続けており、国民の出生意欲が低下する。急速な高齢化や若者人口減少などの課題が懸念されるようになった。少子高齢化への対応として、中国政府は徐々に出産規制を緩和している。2016年にすべての夫婦が二人目の子供が産むことができるという「二人っ子政策」が実施され、そして2021年5月に、夫婦に3人目の子供を産むことを認める方針も発表された。しかしながら、若者たちの間で晩婚や非婚の傾向が一般的になりつつあり、社会もそれを許容するようになってきた。さらに、高騰した不動産、足りない保育施設、高い教育費などの問題が存在しているので、一部の人にとっては育児に不安を感じる。

本研究は、中国都市部における有配偶男女の出生意欲に焦点をあて、希望の子ども数を考える場合、主観的な満足度、育児に関する価値観、公共事業に対する評価、あるいは別の要因による影響があるのか、またその影響に男女の違いはあるのかを考察する。さらに、どちらの子ども性の性別組合せを望むのかという性別選好も考察する。

先行研究から見ると、女性の出生意欲、出生行動に関する研究が多いことが分かる。本研究は、男女に分けて出生意欲の関連要因の違いを検討し、特に主観的評価、価値観がもたらす影響に注目する。

本研究は「2018年中国家庭動態追跡調査 (China Family Panel Studies, CFPS)」の個票データを用いて、中国都市部において20~40歳の有配偶男女を研究対象として、実証分析を行う。希望子ども数の分析は順序ロジスティック回帰で推定し、希望の子ども性の性別組合せの分析は多項ロジスティック回帰で推定する。

報告予定の内容構成については、まずは研究背景および目的を説明する。次に、出生行動に関する理論的枠組み、出生意欲に関する先行研究について述べる。そして、利用データや分析方法を説明する。最後に、実証分析から得られた分析結果を説明し、今後の研究のあり方について展望する。